

東京家政大学 学修・教育開発センター

クレッド CRED通信 12 2020.2

「自主自律の学び」を研究・支援します。

01 教職員研究会
東京家政大学の自己点検・評価を考える

02 学生CRED
学生FDサミット／学生CREDアンケート企画
アンケート集計結果

03 CRED COLUMN
共催によるFD／SD
学長裁量研修



04 IR報告
東京家政大学の学習成果の可視化に向けて
GPS-Academicの紹介と導入速報

05 CRED NEWS
活動記録 2019.04-2020.03

06 CRED NEWS
スタートアップセミナー自主自律

教職員研究会

東京家政大学の自己点検・評価を考える

DATA

第一部 2019年7月18日(木) 15:20～17:00

第二部 2019年9月3日(火) 13:00～17:00

はじめに

安積 和広
学修・教育開発センター

令和元年度の教職員研究会は昨年に続き第一部と第二部の間に期間を空ける形をとり、第一部は7月18日(木)、第二部は9月3日(水)に開催されました。テーマは「東京家政大学の自己点検・評価を考える」です。一昨年と昨年は「東京家政大学の内部質保証を考える」であることから、3年間一貫したテーマに取り組んでいることとなります。

今回、第二部では「教員の部」「職員の部」に加え、新たに執行部向けの「理事・副学長・学部長・事務部長の部」の研修を設け、同時に3つの研修を実施しました。

研修は受けたそのときは得るものが多いと感じても、その場限りのものになりがちで、日常に戻ると研修内容を忘れてしまう、といったことがしばしば起こります。今回の教職員研究会では、第一部～第二部事前課題～第二部～事後課題(各所属による年度末までの取り組み)といった形で、受けた研修内容と、日々の教育活動・業務が可能な限り繋がったものとして捉えていただけたら、という思いをもちながらプログラムの検討を行いました。

基調講演

立命館の事例を聴き本学の内部質保証システムを考える

井上 俊哉 副学長
心理カウンセリング学科

本学は、第2期認証評価の最終年である2017年度に「内部質保証」に関して、大学基準協会から以下の「努力課題」の指摘を受けました。

貴大学における自己点検・評価については、これまで部署単位での実施にとどまり、組織的に行われていなかったため、今後は2016(平成28)年度に整備した「内部質保証委員会」を責任主体とする内部質保証システムを十全に機能させ、恒常的・継続的に教育の質保証及び向上に取り組むよう、改善が望まれる。

「努力課題」への対応策を講じる参考として、立命館大学教育開発推進機構 大学評価・IR室副室長の鳥居朋子先生に基調講演の講師をお願いしました。立命館大学は、IRに基づく点検・評価、内部質保証システムの確立にいち早く着手し、第3期認証評価初年度に大学基準協会の評価を受審した29大学のうち、内部質保証の基準で「長所」の評価を得た唯一の大学です。

基調講演では、立命館大学の豊富かつ充実した取り組みについて、具体的な話を伺うことができました。印象に残ったのは、「各大学にすでに内在している質保証の独自のしくみを可視化し、言語化し、共有化することが必要。そこからはじめて、システムの弱みを改善し、強みを活かすよう整備することが可能になる。」という指摘です。立命館と本学では規模も違いますし、最先端の取り組みをそのまま真似ても機能しないでしょう。ビジョンの大切さや学内の諸組織間の関係のとらえ方など、得られたヒントを参考にし、本学の現状から出発して一歩ずつ進むしかない、と確認することができました。また、先進的な立命館大学でも、なおいくつもの「課題」を挙げておられました。これでよいという内部質保証システムの完成形があるわけではなく、「恒常的・継続的に」現状を客観的・冷静に把握・評価し、改善を続けていける仕組み作りが求められているのだと再認識しました。

管理職の部

実のある自己点検・評価に情報共有は不可欠

山本 和人 学長
東京家政大学 東京家政大学短期大学部

令和元年度の教職員研究会が、昨年よりも多くの教職員が参加して、9月3日に開催された。今年は、理事・副学長・学部長・事務部長を対象とした、「東京家政大学の自己点検・評価を考えるワークショップ」が設定され、菅谷定彦理事長もメンバーとしてご出席いただき、ワークが行われた。前半は、教育制度研究をご専門とする早稲田大学文学学術院の沖清豪教授を講師に迎え、分かりやすい資料を基に内部質保証重視の背景や内部質保証システム運用上の留意点のお話を伺った。後半は、本学のシステムの在り方、さらには、今後の改革・改善に向けて何ができるかを話し合った。

エリート教育としての高等教育の時代と異なり、マス教育の段階を経て今やユニバーサル教育の段階に入り、学生が多様化してきている。そのような学生に対する教育の質保証の達成が今求められている。

教育活動は学生の成長を促すものであり、そのために、カリキュラム開発や授業方法の改善、教育目標に即した学修成果の評価方法、さらには、学生の主体性や社会性の育成を図るだけでなく、それがどの程度達成できているかを評価・点検・改善していくことを、大学が組織的にやり、達成しなければならない。そのための質保証システムの構築と実行が大切であるということである。

後半のワークショップでは、「学士課程教育の全学的な検証」を、グループに分かれて、ワークシートを使いながら本学の状況を分析した。ポイントが10項目に分けられ、それぞれ「現状・成果」と「課題・対応策」を記入した。その後紹介された意見には、「学生と共に取り組んで問題解決を図る必要性」「問題・課題に対する全学

的な共有がなされていない」などがあり、データを集め・分析し、共有化を図ることの重要性が指摘された。

長いと思われた時間も瞬く間に過ぎ、参加者の「意識の共有化」も進んだと考えられ、今後の展開が楽しみである。

管理職の部

「管理職研修」における講演内容から理事・監事が受けるもの

岩田 力
常務理事

最初に、早稲田大学文学学術院教授である、沖清豪先生による講演を拝聴した。この「管理職研修」の目的（到達目標）は、「東京家政大学における内部質保証システムを機能させ、点検・評価活動を定期的に遂行するための具体策を提案できる。」ことであるが、そのためには ①国内外における高等教育の動向を踏まえながら、内部質保証重視の背景を理解する ②3つのポリシーや内部質保証システムの体系と運用の留意点を理解する ③渡辺学園にとって理想的な内部質保証システムのあり方を議論する ④現状を踏まえる ⑤今後の改革・改善に向けて何ができるかを全体で考える、というワークショップとしての内容が示され、特に①と②に重点を置いた説明を展開された。時代、国そのものの変化による高等教育のあり方の変化、学生そのものの変化すなわちエリート型からマス・ユニバーサル型の学生への移行に大学がどのように応えるべきか、大学の機能そのものを見直しと責任の確認が要請されている状況をよく理解しなければならない。質保証という考え方そのものが国際的な流れである。東京家政大学においても内部質保証システムの体系化が図られているが、そもそもシステムそのものを点検し機能させていかなければならない。そのためには管理職は何を考え実行するのか、ワークショップ



で理想、現実、未来を話しましょうと、講演を締めくくられた。理事、監事のグループにおけるワークショップでは、作業に慣れないもの同士のためほぼ自由討論で終わったが、改めて大学の存在と学生を社会に送り出すことの意味と意義を継続的に考えていく必要と具体的な行動が求められていることは、共通認識として得られたと考える。

教員の部

我々が求める人材と必要な教育を再確認する

磯 直樹
リハビリテーション学科

私にとって、今回の教員研修会が本学のリハビリテーション学科の3つのポリシーを見直す初めての機会となった。リハビリテーション学科では、理学療法士・作業療法士の指定規則の改定により、臨床実習の形態に変更があったことなどから、理学療法士・作業療法士を養成する大学の変換期を迎えている。時代の変化に適したポリシーを定め、本学へ理学療法士・作業療法士に興味・希望のある学生を招き、これらの資格を取るべく、学生がどのような人間に成長してもらいたいかを考えることは非常に重要である。私個人としては、研修会に参加する前は、目の前の授業についてどのような課題や教示が学生にとって良いかを考えて授業の準備をすることに追われ、ポリシーまであまり意識できていなかったように思う。学科単位でも教員が一堂に会して点検項目に沿って3つのポリシーを検討する機会は少なく、今回、このような機会を得たことで3つにポリシーを具体的に検討し、先輩教員の意見を聞くことで、学科として考える課題と教員個人として考えなければならない課題を整理する良い機会となった。点検項目に沿って科目の構成からポリシーとの関連性を具体的に検討し、さらに研修会という場で他学科の議論やポリシーを参考にすることができ、リハビリテーション学科のポリシーを検証していくにあたり大変参考になった。東京家政大学の特徴を活かしつつ、リハビリテーション学科の専門性や独自性がより強化され、学生が目指すべき学科であり、社会や学生が求める知識や技術を教授できる

よう、ポリシーを引き続き検討していきたい。

職員の部

東京家政大学が目指すものと事務職員の職務との関係性を確認する

原 裕志
教育支援センター 次長

9/3午後から、教職員研究会 第二部（職員）「東京家政大学の自己点検・評価を考えるワークショップ」が実施された。

グループワーク①は、本学の教育理念、教育目的、3つのポリシーを理解し、業務との関連について考える事前課題から、各自の業務課題と改善策を討議した。大学の基本的機能が、教育（、研究）機関であり、教育の根幹にある、「本学はどのような学生を育てたいのか＝DP」を実際に読み、具体的な担当業務と、学生の教育さらに教育の基盤にある教員の研究との、直接的・間接的な関連性を考える活発な討論が行われた。

コミュニケーション能力、問題解決力、教育理念の実践、学びの環境整備など具体的な課題とそれに対する改善案が提示された。

グループワーク②では、日常的に行われている、業務の計画、実行、検証、改善（いわゆる、PDCA）を記録する、部署別年間SD課題活動を共有し、各部署の活動目標の適格性を含めた活動状況の検討を行った。学園の理念に通じる教育、研究の目標軸の中で、各部署の業務の活動を検証し、改善を図る課題の確認と解決をめざす討論が行われた。部署活動の進捗、部署内での活動の共有が十分でない状況が報告され、後期に向け業務改善を進めることを確認した。

ワーク①の前に、理念、目的、ポリシーの関連について、②の後に、SD課題下半期の活動に向けたポイントが、鹿沼狭山学務部次長から解説され、ワークショップと今後の活動への理解を促した。

本学の目指す学生の育成（DP）、教育の基盤となる教員の研究の推進のための具体的な業務活動を事務職員が支えることの重要性を確認したワークショップであった。

CRED
TOPICS



学生CRED

PROGRAM	12:00	受付開始
	13:00	オープニング
	14:40	集合写真
	15:00	ポスターセッション
	17:00	移動
	17:30	情報交換会
	19:00	終了

8/27
TUE

PROGRAM	09:00	受付開始
	10:00	しゃべり場
	12:00	昼休憩／発表準備
	13:30	発表
	14:30	移動
	15:00	クロージング
	16:00	解散

8/28
WED

2019夏

学生FDサミット in 北翔大学

DATA

2019年8月27日（火）12:00～19:00、8月28日（水）9:00～16:00
北翔大学 / 学生5名

Chinatsu
Imada



稲田 千夏

家政学部 栄養学科栄養学専攻1年



“大学生の今でしかできないことをしたい北海道に行ってみよう。”

思い立ったが吉日。大学に入りたてのなにもかもが新鮮な私は、せっかくならこの機会にと、参加を申し込みました。

好奇心と興味の勢いで申し込んだものの、ディスカッションに苦手意識があったこともあり、サミットの日が近くなってくるにつれ、しっかりディスカッションできるか、堅苦しいイベントなのか、班の人と全く気が合わなかったらどうしよう、などといった気持ちももちろんありました。

そして迎えた当日。1日目はポスターセッション。ずらりと貼りだされた何枚ものポスター。私たちはポスターの制作はしませんでした。参加した他の大学のそれ

ぞれの独自の取り組みについて知ることができました。

2日目は教職員学生混合のグループに分かれて「大学はつまらない？」といったテーマでディスカッションをしました。全員初対面でしたが、当初の不安が知らぬ間に無くなっていくほど思っていた以上に皆さん社交的で優しく、話し合いは円滑に行え、休み時間には趣味やそれぞれの地元話で盛り上がりました。班員は私と同じ1年生がほとんどでしたが、素晴らしいリーダーシップを発揮していた方、建設的な意見をたくさん出していた方を見ては、自分はまだまだだなと何度も思いました。また、効率の良いディスカッション方法や、より見やすい模造紙へのまとめ方、魅力的

なプレゼンテーションの仕方も実際に目で見て学ぶことができました。グループに教職員の方がいらっしゃったことで、また違った方向からの意見を聞くことができましたし、全く違う地域、違う大学から人が集まることで、より様々な視点からのアイデアを聞くことができました。

自分の意見を上手く言葉にできなかったり、話し合いが進むにつれ頭が混乱し、周りについていけなくなったりと前からディスカッションが苦手だった私ですが、このサミットを通してディスカッション=難しい、堅苦しい、苦手といったイメージから、ディスカッション=視野が広がる有意義な場といったプラスな印象に変わりました。まだ得意だとは言えませんが、この数時間で私は確実に成長しました。軽い気持ちで申し込みましたが、過去の自分は大正解でした。普段の大学生活では経験できない大変貴重な時間を過ごすことができ、参加して良かったと思っています。そして、共有して頂いた他校の取り組みや得た情報・資料を今後、自分たちの活動の参考にしたいです。



学生CRED アンケート企画

Ketomi
Hagino

萩野 珠光
人文学部 心理カウンセリング学科2年

DATA

2019年12月5日(木) 16:00～18:00 / ルーチェ (板橋キャンパス16号館1階)
学生17名、教員15名、職員6名

アンケート企画に携わらせていただきました、心理カウンセリング学科2年の萩野です。

私たち学生CREDは、「家政大を、自分たちの学生生活をよりよくするために」という発足当初の目的のもと、学生CRED史上初の取り組みとしてアンケート企画を実施しました。アンケート実施に至るきっかけとしては、「本学への改善点を発見するためには、まず学生の意見を聞くことが大切だ」と考えたことが始まりでした。

アンケート実施までの経過としては、本年度前期に実施時期や方法、質問の大まかな内容を決定しました。夏頃に質問項目についてメンバーで話し合い、具体的なアンケートの作成を行いました。アンケートの内容は大きくは、「授業に関する質問」と「施設・設備に関する質問」のふたつに分けて構成を練っていきました。質問項目については統計の専門家である学修・教育開

発センターの井上先生に添削をいただきましたが、学生が作成したアンケートということに大きな意味がある、と最大限内容を変えないように配慮していただきました。実際にアンケートを実施したのは11月中旬から下旬にかけての2週間ほどの期間でした。

初の試みということで、アンケート実施までには多くの課題や不安がありましたが、無事に終了することができ、ほっとしています。

話し合いを重ねる中で質問内容が膨らんでいき、設問数もかなり多くなりましたが、たくさん学生の回答を得ることができました。記述で意見をしっかりと伝えてくれる学生も多く、今までは見えていなかった学生の声をたくさん発見しました。また、今回のアンケートの結果を見て、想像していた以上の家政大生の真面目さ、学びに対する意欲を感じました。

私は今回のアンケート企画を通して、ベースのないものを0から作り上げることの大変さ、そして、達成したときの感動を味わうことができました。

このような経験ができたのは、たくさんの学生が回答に協力してくれたこと、そして、私たち学生の「やってみよう！」という声にしっかりと耳を傾けて下さる教職員の方が、東京家政大学にいらっしゃったからだと思います。

さて、今回のアンケート企画の目的は、アンケートを行って終わりではありません。私たちはこれからの東京家政大学をより良くするための一歩として、アンケートを実施しました。学生が伝えてくれた意見を無駄にしないように、精一杯報いることができるように、私たち学生CREDは、今後より一層の努力と行動を重ねていきます。



交流会当日プログラム

- 16:00 開会
- 16:05 アイスブレイク
- 16:20 アンケート結果についての報告
- 16:35 学生・教職員で話し合い
- 17:15 班ごとに発表
- 18:00 閉会

学生による学生のためのアンケート実施！

本年度学生CREDの新しい取り組みとして実施された「大学生活に関するアンケート」には、大学生活をより良くしたいと願う学生の思いが込められていました。従来、与えられるだけであった大学内での生活環境に対して学生から声を挙げていくということは、東京家政大学の建学の精神「自主自律」に根付いたものであったのではないのでしょうか。

今回の「大学生活に関するアンケート」は東京家政大学の家政学部・人文学部生を対象にしたもので、回答人数は1298人となっています。

質問内容は主に「授業に関するもの」と「大学の施設設備に関するもの」の2種類から構成されています。

注目したい結果

1. 家政大生ははじめ？

膨大な質問数の中で、特に注目すべき2つのデータについて、ご紹介します。

まず、あまり「興味がなくとも単位を楽にとれる授業」と「単位をとるのが難しくても自分の興味がある授業」では、後者の方が良いという回答が多くなっています(図1)。この質問はベネッセ教育総合研

究所が2016年に全国の大学生に実施した質問(図2)と同じもので、比較すると家政大生は自分の興味のある分野を学びたい学生が多い傾向にあることが明らかになりました。また、「あなたは目的をもって大学の授業に参加していますか?」という質問(図3)に対して、「はい」84.3%「いいえ」15.7%という結果がでていることから、自分の目的や進路に基づいて授業を選択している学生が多いだろうということが分かりました。

2. 学生と教員の「評価」に関する認識のずれ

続いて、「発表された成績評価を見て、納得できないと思ったことがありますか」という質問(図4)に対して「よくある」「ときどきある」を選択した学生の割合は40.8%と少なくない結果であることに注目しました。なぜこのような結果になったのでしょうか。

学生が納得できない理由について、テストやレポートといった評価に関わる提出物に対するフィードバックがないまま成績評価されるため、なぜその評価になったのか理解できない、という意見が多く見られました。目的をもって授業に望んでいる学生にとって、レポートやテストは自分の理解度を客観的に図る機会でもあり、教員からのフィードバックを参考にしたい学生も

多いでしょう。教員からのフィードバックを増やすことで、双方向的な学習を促進し、学生の授業に対する満足度の向上を狙うこともできます。

おわりに

今回の結果を受けてどのような印象を受けたでしょうか。本学には、進路や目的のために授業を受けていて、教員からの多くのフィードバックを求めている学生が多いようです。それぞれの専門分野の第一線でご活躍される教員の皆さまの教えを、より多くの学生が吸収できるような授業づくりについて検討していく機会になればと思います。

SCHEDULE

5月

企画検討開始

10月末～11月

アンケート実施

11月

アンケート集計

12月

教職員にアンケート結果を報告

心理カウンセリング学科2年 萩野珠光・CRED矢野穂

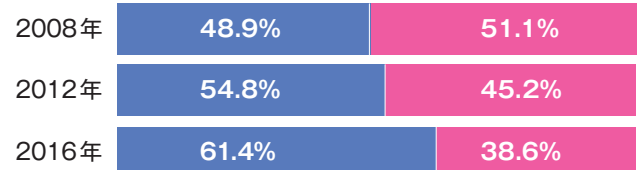
図1



■ あまり興味がなくとも、単位を楽にとれる授業

■ 単位をとるのが難しくても、自分の興味のある授業

図2



■ あまり興味がなくとも、単位を楽にとれる授業がよい

■ 単位をとるのが難しくても、自分の興味のある授業がよい



学生アンケート企画の意義について： 受動的なモニター係から、 積極的な参画者としての学生の役割変化

大西 淳之

本学栄養学科教授（生化学研究室）、
学修・教育開発センター参事。

東京家政大学キャンパス内での主役は学生であり、その学生が在学中（大学生なら4年間、短大生なら2年間）にディプロマ・ポリシーで掲げている学生像に成長できるように学修環境を整えることが教職員の責務となる。そのような学修環境を作り出していくことを目的として、学生CREDメンバーによる学生対象のアンケート質問項目の作成と全学的な調査の実施に初めて取り組んだ。設問内容は、成績評価や授業関連項目、大学の施設・設備状況や空き時間の過ごし方を含む13セクションからなる。選ばれた設問は家政大キャン

パス内で学生自身が感じる重要な課題であり、それらをより良くしていくための全学的な取り組みについて共有できる貴重な機会となった。得られた回答結果（特に自由記述欄）を眺めると、教員が授業の中で重視している項目は、必ずしも学生が満足する項目と一致するとは限らないことも分かる。このことは現在、学内で行っている授業アンケートが、学生からの授業評価を拾いきれていないことを示している。今回は、学生参画型FDとして最初の一步となった。

図3

Q あなたは目的をもって大学の授業に参加していますか

■ はい
■ いいえ

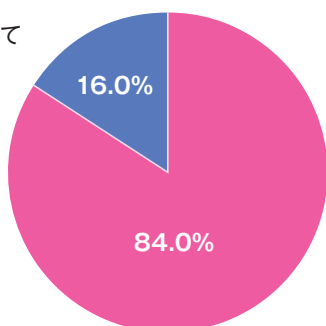
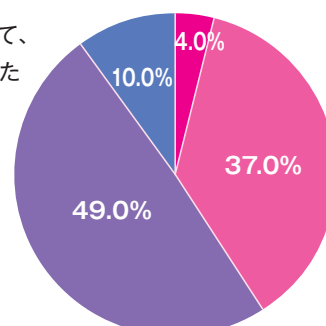


図4

Q 発表された成績評価を見て、「納得できない」と思ったことがありますか

■ よくある
■ ときどきある
■ あまりない
■ まったくない



共催によるFD

人文学部 英語コミュニケーション学科 並木 有希 / 人間生活学総合研究科 英語・英語教育研究専攻 塩入 潔乃

外国語教授法 (English as Lingua Franca) についてのFDイベント



令和元年6月14日に外国語教授法に関するFDイベントが開かれました。立教女学院短期大学専任講師の龍野みゆき先生をお招きし、EFL (English as a

Lingua Franca) をテーマに、様々な場面における「共通語としての英語」について講義が行われました。

講義では、共通語として話されている英語の現状や、様々な国や地域において話される英語と「文化の違い」を関連づけた実際の体験を通してELFについて学んでいきました。さらに、「言語」というテーマから派生し、今日の世界ではどのような言語が話され、それらの言語話者の人口はどのくらいなのかといった「世界の言語」に関する基礎知識を復習する機会も設けられました。

講義中に行われたワークショップでは、「ビジネス場面での英語」をはじめとする様々な文脈で用いられる英語に触れながら、

異文化コミュニケーションに焦点を当て参加者同士で議論をし、それに関する意見交換をしました。そのほかにも、参加者の多くが母語とする日本語を用いて、ある言葉を日本語から英語に置き換えることで生じ得る言葉の意味上の文化的差異に意識を向けるという活動が行われました。

これらの活動を通して、それぞれの国や地域がもつ文化の違いを意識し、英語を用いた相互コミュニケーションの手段やその方法について考えることで、場面や状況に合わせた英語の在り方について参加者自身が気づき、発見する機会となりました。

教科書上で学んできた英語と「共通語としての英語」の在り方の違いについて理解を深めることで、「言語の本質」とは何かを考えるきっかけとなりました。今回の講義で学び得た知識を、コミュニケーションの場において大いに活かすことができるよう、これからも「言語の本質」について学び深めたいと感じました。さらに、それらの知識を活用し、「相手に伝えるための英語」、そして異なる文化・言語背景を理解する大切さを常に意識しながら今後の英語学習につなげていきたいと思えます。

共催によるSD

臨床相談センター 人文学部 心理カウンセリング学科 相馬 誠一

公開講演会「あたためて『いじめ・不登校』を問う」

11月24日(日)臨床相談センター主催、学修・教育開発センター共催で京都教育大学名誉教授・滋賀県大津市教育委員(前教育長)の桶谷 守先生をお招きして「あたためて『いじめ・不登校』を問う」の講演会を実施しました。桶谷先生は、関西地区の生徒指導・教育相談の中心者で、京都市で不登校のための公立中学校の設立し、滋賀県大津市のいじめ問題を教育長として解決の道筋を作った先生です。

文部科学省調査(2019)によると、いじめの認知件数は543,933件、小中学校の長期欠席数は240,039人、不登校児童生徒数は164,528人と調査開始以来、過去最高を記録し学校現場では対応に苦慮している現状です。学校現場は待ったなしの状況で、いじめ問題・不登校問題に取り組む必要があります。桶谷先生は、こうした現状に触れながら、より具体的な支援の在り方、行政の在り方について方向性を指し示しました。

本研修会は東京都だけでなく、青森県、茨城県、静岡県、栃木県、群馬県、埼玉県、神奈川県、千葉県から多くの参加者が集まり、一同、学校現場での対応について、より具体的な支援の在り方、行政の在り方について実践できる方法を確認しました。

臨床相談センター主催と学修・教育開発センター共催で本研修会を行うことにより、本学学生や院生の知識向上と多くの行政機関や他大学生の知識習得に結びつきました。また、臨床相談センターは、大学院生の「臨床心理士・公認心理師」の養成のための実習機関として、地域の人たちのカウンセリングの機関として位置づけられておりますが、今回の研修会を企画する事により、学校現場や地域にPRできたと思えます。

今後とも精進し学校現場や地域の力になりたいと考えています。



学長裁量研修

短期大学部 栄養科 重村 泰毅

manaba 導入による学習効果

9/5に開催致しました学長裁量費の研修についてご報告いたします。manabaは本学導入から3年目を迎えており、学生にも教員にも浸透してきているかなと思う反面、本当に学習効果が向上したのか?と常に疑問を抱いておりました。もちろん、様々な課題の回収や出席確認などは便利にはなりますが、e-learningの導入は少なくともこれまでの自身の授業スタイルの変更を強いられることになり、学習効果向上のメリットがないようでは、苦勞して導入する価値はありません。ですが、現状、数年に渡ってe-learning導入による学習効果向上を追跡評価した報告は多くなく、導入後の評価については不明な状態です。そこで私の学長



裁量費の取り組みは、導入から3年間毎年同じ試験を実施する授業を設定し、manabaの機能を変化させていくことで学生の試験点数がどのように変化していったのか?につい

て分析を行う計画を実行しました。

現在その3年目を迎えているためまだ計画が進行中ですが、前期の授業について3年間の追跡調査を今回の研修で報告させて頂きました。その結果、出題した「小テスト」の合計点数と正答率が高いほど、試験点数も高い傾向が見られました。しかし、manabaの小テスト機能を「ドリル」に変更すると、この傾向が低下することも分かりました。これは、出題された同じ問題を何度も回答する【ドリル】は学生の学習意欲向上には繋がっていない可能性が考えられました。一方で、学生の試験点数向上にはさほど影響はありませんでしたが、responを使用した意見抽出や、授業前事前課題の出題によって学生からの授業評価アンケートは向上しました。まだ途中結果ではありますが、今回のことからmanabaの機能と学習効果向上とをよく考慮して活用しないといけない、そして授業評価アンケートの設問が学習効果向上とは別であるという認識をもって授業改革を取り組まなくてはならないということに気づかされました。

学長裁量研修

人文学部 心理カウンセリング学科 三浦 正江

心理カウンセリング学科における動画を用いた効果的な反転授業の在り方に関する検討

本学科では、平成29年度から教育改革推進（学長裁量）経費を受けていくつかの科目に動画を用いた反転授業を導入し、効果を検討している。3年目の今年は従来の受講生対象調査に加えて、動画視聴データを用いた検討を試みている。そこで本研修会では、反転授業を導入した2科目（受講者80名程度の講義と30名程度の実習）を取り上げ、これらのデータについて報告した。

まず、質問紙調査の結果は2科目共通の傾向がみられた。具体的には、受講生の約90%が動画教材を「わかりやすい」「講義の理解が進んだ」と評価し、動画を視聴して練習問題やワークシート作業を行う予習課題全体についても、90%が「講義の理解が進んだ」と回答した。さらに、予習課題に関するペア/グループワークについても約90%が「講義の理解が進んだ」と評価し、50-60%が反転授業を「今後も受けたい」と回答した。以上から、受講者数や講義/実習の違いにかかわらず、動画を用いた反転授業には授業理解を促進する一定の効果があるといえよう。

一方、動画の視聴状況は授業科目によって異なった。具体的には、講義科目では動画の視聴割合80%以上の受講生が5-6割であるが、実習科目では7-8割であった。また、繰り返しの視聴に



については、講義科目では動画の一部分のみであったが、実習科目では動画全体にわたっていた。各科目で用いた動画教材の長さ・難易度・導入した授業回数に大差はないものの、動画を視聴しながら行う予習課題については、実習科目の方が丁寧に取組む必要のある内容で量も多かった。また、講義科目では授業後に予習課題の提出を求めたが、実習科目では開始前に確認を行った。これらの違いによって、受講生の動画視聴が影響を受けたと考えられ、より効果的な反転授業を行うための課題が示唆された。

IR報告

東京家政大学の学習成果の可視化に向けて

学習成果への注目

多くの国で大学進学率が50%を超え、高等教育の質保証が国際的に重要な課題となっています。とくに、大学の教育活動によって「学生が何を知り、理解し、できるようになるか」という学習成果※が注目され、各国で学習成果を重視した高等教育改革が進んでいます（川嶋，2009；深堀，2015）。日本では、「学士課程教育の構築に向けて」（中央教育審議会，2008）において、学士課程共通の学習成果の参考指針として、学士力が提案されました。その後、「質的転換答申」（中央教育審議会，2012）で、学修成果の把握（アセスメント）の重要性が強調され、認証評価においても学習成果の把握・評価が求められています。大学基準協会が示す大学基準4「教育課程・学習成果」では、「学位授与方針に明示した学生の学習成果を適切に把握及び評価しているか。」という点検・評価項目

が設けられています（松下（2017）は、「学習成果」という言葉が、学習の目標としての意味と、学習の結果（評価対象）としての意味を併せ持つと指摘していますが、「学位授与方針に明示した学生の学習成果」というとき「学習成果」は学習の目標を含意し、「学習成果を適切に把握及び評価」における「学習成果」は学習の結果を指すと読めそうです）。

学習成果の評価方法

学位授与方針に定めた学習成果（学習目標）の達成状況を学生自身が実感・説明でき、大学が教育課程の改善に活用できるようにするには、複数の情報を組み合わせ、学習成果を多面的に把握・評価することが求められます。松下（2017）は、学習成果（学習の結果）の評価について、直接評価－間接評価（「学習者が『何を知り何ができるか』を実際にやってみさせるこ

とに基づく評価）か「学習者が『何を知り何ができると思っているか』『どのように学習を行っているか』を自己評価させることによる評価）か、量的評価－質的評価（評価データは量的か質的か）という2軸で整理することを提案しています。本学の学科・科の学習成果を評価するために、学修・教育開発センターが提供できる情報を2軸で整理してみました（図1）。

※「がくしゅう」には「学修」と「学習」の表記があります。2012年の質的転換答申以後の政策文書では、単位取得につながる正課教育を通して獲得する成果を「学修成果」と表記しています。これに対して、正課外教育も含む大学教育全般を通して獲得する成果は「学習成果」です。本稿では「学習成果」を用いることにしますが、文書を引用するときには、その文書で使われている表記を用います。



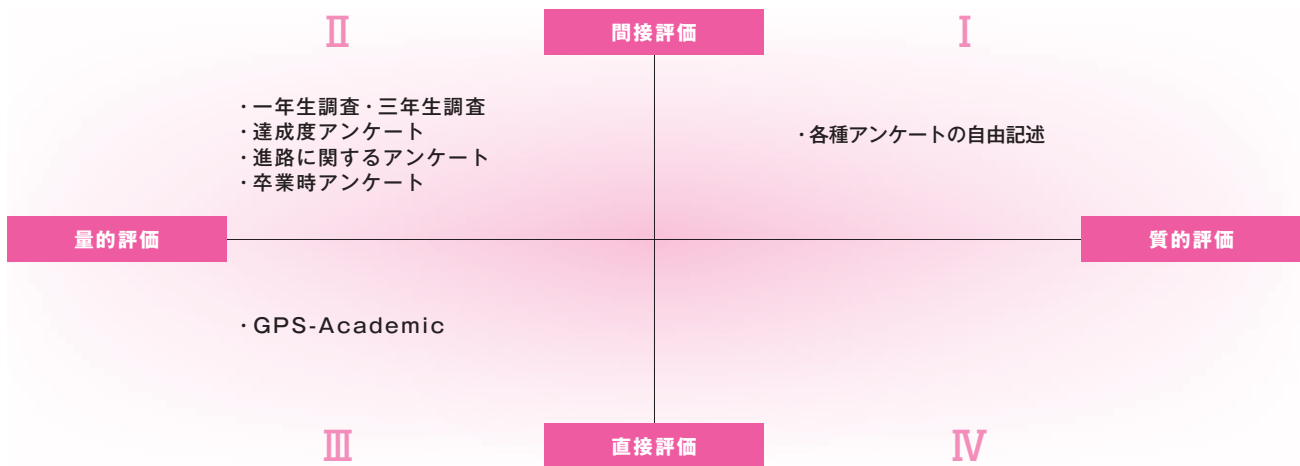


図1 東京家政大学の学科・科の学習成果をどう把握・評価するか

本学のアセスメントプラン

図1に見るように、本学では、入学してから卒業するまでの間、学生たちにいくつものアンケート調査への回答を求めています。今後、アンケート項目の見直しは必要になるかもしれませんが、間接評価の指標は当面足りています（図1におけるIとIIの象限）。一方で、直接評価の指標は十分とは言えません（図1におけるIIIとIVの象限）。学生の成長実感や学習時間などの情報は間接評価から得られますが、学生たちが実際に「何を知り、何をできるか」を把握するには直接評価が欠かせません。本学では、直接評価のためのツールとして、2019年度からGPS-Academicを導入しました（12-13ページの「GPS-Academicの紹介と導入速報」をご覧ください）。この一、二年で多くの大学が

GPS-Academicを導入しており、他大学との比較において本学の学生の思考力、姿勢・態度を直接評価できることは大きなメリットです。しかし、本学独自の学習成果を的確に捉えるには、図1の第IV象限に成績評価を位置づける努力が必要です。学習成果の指標として成績評価が妥当だと主張するためには、①学位授与方針で定めた学習成果を確実に修得できる教育課程が編成されていること、②学位授与方針で定めた学習成果と各授業の到達目標が明確に関連付けられていること、③各科目の成績評価が客観的かつ厳格に行われることが前提となります。

内部質保証委員会のもとで活動する学修成果指標に関する検討小委員会では、本学における学生の学習成果の評価（アセスメント）について、その目的、用いる指標、

達成すべき水準、学生や社会に向けての示し方、教育改善への活かし方などを確認し、2020年度前半のうちに東京家政大学のアセスメントプランとして明示したいと考えています。

【引用文献】

川嶋太津夫 (2009). アウトカム重視の高等教育改革の国際的動向—「学士力」提案の意義と背景— 比較教育学研究, 38, 114-131.

深堀聰子 (2015). アウトカムに基づく大学教育の質保証—チューニングとアセスメントにみる世界の動向 東信堂

中央教育審議会 (2008). 学士課程教育の構築に向けて (答申)

中央教育審議会 (2012). 新たな未来を築くための大学教育の質的転換に向けて～生涯学び続け、主体的に考える力を育成する大学へ～ (答申)

松下佳代 (2017). 学習成果とその可視化 高等教育研究, 20, 93-112.



IR報告

GPS-Academicの紹介と導入速報

GPS-Academicの導入経緯

2019年4月より(株)ベネッセi-キャリアのGPS-Academicを導入しました。大学での学修成果を可視化・検証するためのアセスメント・ツールです。学生の空き時間に解答できるようにパソコンを用います。

東京家政大学では、すでに「達成度アンケート」や「一年生・三年生調査」等で学修成果を多面的に捕捉し、情報を蓄積しています。しかし、今回のGPS-Academicの導入により、成果の把握がさらに幅広くそして深くなることが期待されます。特に、直接指標で学修成果の把握が可能になったところが大きな進歩です。今までは、学生が自分自身で自らの学修状況を評価していました(間接指標・アンケート)が、テストでその能力そのものを測ります。下図のように、「思考力」「姿勢・態度」「経験」を測定することができます。



「思考力」をみる

詳しい内容については、別の機会に譲りまして、今回は速報的に重要なデータをご紹介します。まず、一年生の「思考力」をみてみましょう(表1～表3)。

「思考力総合」を見ますと、学部間、学科間に多少の差があります。しかし、そのことよりも、それを構成している「批判的思考力」「協働的思考力」「創造的思考力」

表1 1年生(4年制大学)の思考力

	思考力総合	批判的思考力	協働的思考力	創造的思考力
家政学部	43.5	42.0	43.6	43.9
児童学科	43.7	42.0	44.1	44.3
児童教育学科	42.1	39.7	42.7	43.9
栄養学科	45.3	44.2	45.7	44.6
服飾美術学科	42.8	41.1	43.1	43.1
環境教育学科	41.5	40.5	39.5	42.0
造形表現学科	41.9	39.7	41.5	43.3
人文学部	41.4	39.0	41.3	41.6
英語コミュニケーション学科	39.8	37.7	39.0	39.8
心理カウンセリング学科	43.8	41.2	44.5	44.0
教育福祉学科	41.2	38.5	40.9	41.6
健康科学部	41.5	40.1	41.1	41.6
看護学科	41.3	40.2	39.6	41.3
リハビリテーション学科	41.8	39.8	43.3	42.0
子ども学部	40.7	39.3	41.6	39.5
子ども支援学科	40.7	39.3	41.6	39.5
合計	42.6	40.9	42.7	42.8

表2 1年生(短期大学部)の思考力

	思考力総合	批判的思考力	協働的思考力	創造的思考力
短期大学部	39.6	37.5	37.6	41.2
保育科	39.7	37.7	38.3	40.5
栄養科	39.5	37.3	36.7	42.0
合計	39.6	37.5	37.6	41.2

表3 3年生の思考力

	思考力総合	批判的思考力	協働的思考力	創造的思考力
家政学部	45.02	43.62	44.44	46.06
児童学科	45.30	43.37	46.13	46.16
児童教育学科	43.29	43.07	42.32	42.30
栄養学科	47.06	46.15	45.56	48.46
服飾美術学科	43.12	40.31	42.49	44.31
環境教育学科	43.99	42.58	45.35	45.05
造形表現学科	42.09	41.30	40.51	43.67
人文学部	43.60	41.23	43.99	44.70
英語コミュニケーション学科	41.71	39.40	42.18	42.82
心理カウンセリング学科	46.62	45.04	46.62	46.71
教育福祉学科	42.28	39.08	42.97	44.34
合計	44.72	43.12	44.35	45.77

それぞれを見て、その学科の学生の強み・弱みを認識し、日常の授業の中でそれを高める、あるいは補う取り組みを、各学科が行っていくことが非常に大切です。

また、今年度は家政学部と人文学部の3年生も受検しましたので、その結果と比べてみましょう。両学部ともに「思考力総合」「批判的思考力」「抽象的思考力」「創造的思考力」で3年生が1年生を上回っています。

「姿勢・態度」を見る

つづいて、「姿勢・態度」を見てみましょう(表4～表6)。いかがでしょうか。「思考力」とは違った傾向が出ています。まず、短期大学部のほうが4年制学部よりも得点が高いところ。また、「姿勢

態度総合」は、1年生と3年生をみると、3年生の値が低くなっているところ。これは何を意味しているのでしょうか。4年制学部1年生よりも短期大学部1年生の方が、また、3年生よりも1年生の方が、「レジリエンス」(感情の制御、立ち直りの速さ、状況に応じ冷静に対応する力)、「リーダーシップ」(自ら先頭に立って進める力、未知の物に挑戦する力、粘り強くやり抜く力)、「コラボレーション」(相手の立場に立とうとする姿勢、他者と関わろうとする積極性)が高いということです。

短期大学部の1年生は、翌年にはもう卒業学年を迎えます。そのスケジュールで学ぶ覚悟から、「姿勢・態度」の総合得点が高く出るといえるでしょう。

4年制学部では、1年生から3年生にか



けて、「思考力」は高まるのに、「姿勢・態度」が低下してしまうのはどうしてでしょう。これは東京家政大学の学生の気質をよく表しているといえます。まじめにこつこつ勉強し、知的な力をつけていくのですが、一方で、人と関わって人を引っ張る力や人間関係で生じるストレスなどに弱いということです。

大学は、学生の知的な高さという財産を生かしつつ、様々な学修体験を用意し、人間関係力やストレス耐性などを高める取り組みをしていく必要があるでしょう。

もちろん、このデータは今年度に収集したものですので、1年生と3年生は別の集団です。つまり、横断的な比較です。しかし、今の1年生が3年生になると、再び、同じテストを受ける予定です。そのときは同一の集団が、1年の間を空けて、1年次と3年次に受検する縦断調査になります。同じ集団の2年後の調査結果は、よりクリアに様々な指標の上昇や減少を語ってくれることとなります。そのように考えると少々不安な気持ちとなります。しかし、今年度の板橋キャンパスは新カリキュラム元年です。この新カリキュラムが功を奏して、「思考力」でも「姿勢・態度」でも効果を出すことを楽しみにしています。

CRED平山祐一郎・丸山毅

表4 1年生（4年制大学）の姿勢・態度

	姿勢・態度総合	レジリエンス	リーダーシップ	コラボレーション
家政学部	48.3	46.8	47.0	51.0
児童学科	48.8	46.6	47.2	52.7
児童教育学科	51.6	47.5	52.0	55.4
栄養学科	48.3	47.3	47.5	50.1
服飾美術学科	47.6	45.9	46.7	50.1
環境教育学科	49.8	50.7	47.0	51.7
造形表現学科	44.8	43.8	43.0	47.5
人文学部	47.9	46.1	46.5	51.2
英語コミュニケーション学科	48.3	46.8	46.8	51.5
心理カウンセリング学科	47.9	46.7	45.6	51.5
教育福祉学科	47.4	44.6	47.1	50.5
健康科学部	49.6	48.4	48.1	52.4
看護学科	49.8	48.4	48.6	52.5
リハビリテーション学科	49.3	48.4	47.3	52.3
子ども学部	48.8	47.3	46.9	52.3
子ども支援学科	48.8	47.3	46.9	52.3
合計	48.4	46.9	47.1	51.3

表5 1年生（短期大学部）の姿勢・態度

	姿勢・態度総合	レジリエンス	リーダーシップ	コラボレーション
短期大学部	49.7	47.9	48.8	52.4
保育科	50.8	48.7	50.2	53.6
栄養科	48.4	46.9	47.2	51.1
合計	49.7	47.9	48.8	52.4

表6 3年生の姿勢・態度

	姿勢・態度総合	レジリエンス	リーダーシップ	コラボレーション
家政学部	48.04	46.84	47.98	49.30
児童学科	47.94	46.70	47.32	49.81
児童教育学科	50.01	47.07	50.84	52.12
栄養学科	48.51	47.47	48.73	49.32
服飾美術学科	46.56	45.61	46.14	47.94
環境教育学科	48.10	48.32	46.86	49.11
造形表現学科	47.16	45.36	48.16	47.95
人文学部	47.06	45.39	46.14	49.65
英語コミュニケーション学科	47.99	46.43	48.15	49.40
心理カウンセリング学科	47.10	46.40	45.57	49.33
教育福祉学科	46.21	43.51	44.95	50.18
合計	47.83	46.54	47.59	49.37

活動記録

学修・教育開発委員会

- 2019年4月10日
第1回委員会（平成31年度FD・SD研修計画等）
- 2019年5月15日
第2回委員会（平成31年度（令和元年度）のポリシーを踏まえた点検・評価等）
- 2019年6月12日
第3回委員会（令和元年度授業公開等）
- 2019年7月10日
第4回委員会（学生FDサミット2019夏with学生FD会議参加等）
- 2019年9月11日
第5回委員会（臨床相談センターとの共催SDイベント等）
- 2019年10月9日
第6回委員会（令和元年度後期授業公開等）
- 2019年11月13日
第7回委員会（学生CREDメンバー追加等）
- 2019年12月11日
第8回委員会（スチューデント・アシスタント規程の改訂等）
- 2020年1月15日
第9回委員会（学生CRED活動従事証明書等）
- 2020年2月12日
第10回委員会（教育改革推進経費予算による研究・開発シリーズ、第3回等）
- 2020年3月11日
第11回委員会（未定）

学修・教育開発センター会議

- 2019年4月25日
第1回センター会議（平成31年度（令和元年度）のポリシーを踏まえた点検・評価等）
- 2019年5月21日
第2回センター会議（2019年度シラバス第三者チェック実施報告等）
- 2019年5月29日
第3回センター会議（令和元年度教職員研究会等）
- 2019年6月4日
第4回センター会議（令和元年度教職員研究会等）
- 2019年6月25日
第5回センター会議（令和元年度教職員研究会等）
- 2019年7月23日
第6回センター会議（令和元年度教職員研究会等）
- 2019年9月18日
第7回センター会議
（学生の学習成果や満足度などに関する各種データの活用および公表等）
- 2019年10月23日
第8回センター会議（令和元年度リサーチウィークスFDフォーラム等）
- 2019年11月20日
第9回センター会議（令和元年度リサーチウィークスFDフォーラム等）
- 2019年12月11日
第10回センター会議（令和元年度リサーチウィークスFDフォーラム等）
- 2020年1月9日
第11回センター会議（令和元年度リサーチウィークスFDフォーラム等）
- 2020年2月4日
第12回センター会議（令和元年度リサーチウィークスFDフォーラム等）
- 2020年3月未定
第13回センター会議（未定）

※括弧内は主な検討事項

行事

- 2019年4月1日
CREDレター15（発行）
- 2019年4月4日
スタートアップ・エクササイズ2019年版（配付）
- 2019年4月4日
GPS-Academicガイダンス（狭山キャンパス1年生）
- 2019年4月5日
manaba操作説明会（企画・実施） ※狭山キャンパス
- 2019年4月8日
manaba操作説明会（企画・実施） ※板橋キャンパス
- 2019年4月8日
GPS-Academicガイダンス（板橋キャンパス1年生）
- 2019年4月11日
第三回新入生ウェルカムパーティー（学生CRED企画・運営）
- 2019年4月26日
GPS-Academicフォローガイダンス（狭山キャンパス）
- 2019年5月23日～8月4日
前期授業アンケート（実施）
- 2019年5月23日,29日
GPS-Academicフォローガイダンス（狭山キャンパス）

- 2019年6月14日
共催によるFDイベント「外国語教授法に関するFDイベント」（共催）
- 2019年6月26日
GPS-Academic 教員向け報告会（板橋キャンパス・狭山キャンパス）
- 2019年6月27日
manaba通信06（発行）
- 2019年6月27日
平成30年度後期授業アンケート集計結果（公開）
- 2019年6月27日
平成30年度後期授業アンケート結果活用報告書（発行）
- 2019年7月1日～31日
前期授業公開（企画）
- 2019年7月4日,11日
GPS-Academicフォローガイダンス（板橋キャンパス）
- 2019年7月18日
CRED通信11（発行）
- 2019年7月18日
令和元年度教職員研究会 第一部（企画・運営）※狭山キャンパス中継
- 2019年8月1日
CREDレター16（発行）
- 2019年8月29日
manaba通信07（発行）
- 2019年9月3日
令和元年度教職員研究会 第二部（企画・運営）
- 2019年9月5日
第1回教育改革推進（学長裁量）経費予算による研究・開発シリーズ
「manaba導入による学習効果について」（企画・実施）
- 2019年9月10日
manaba講習会（企画・実施） ※板橋キャンパス
- 2019年9月17日～2020年1月31日
後期授業アンケート（実施）
- 2019年10月31日～11月16日
大学IRコンソーシアム「学生調査」（実施）
- 2019年11月1日
CREDレター17（発行）
- 2019年11月14日～26日
学生CREDによるアンケート企画（学生CRED企画・運営）
- 2019年11月21日
令和元年度前期授業アンケート結果活用報告書（発行）
- 2019年11月21日
令和元年度前期授業アンケート集計結果（公開）
- 2019年11月24日
共催によるSDイベント「あらためて「いじめ・不登校」を問う」（共催）
- 2019年12月1日
平成30年度 教育改革推進（学長裁量）経費予算による
研究・開発の成果報告書（発行）
- 2019年12月2日～21日
後期授業公開（企画）
- 2019年12月5日
学生と教職員の交流会（学生CRED企画・運営）
- 2019年12月12日
manaba通信08（発行）
- 2019年12月19日
第2回教育改革推進（学長裁量）経費予算による研究・開発シリーズ
「心理カウンセリング学科における動画を用いた効果的な反転授業の
在り方に関する検討」（企画・実施）
- 2020年1月24日
CREDレター18（発行）
- 2020年1月29日
自校教育科目「スタートアップセミナー自主自律」研修（企画・運営）
- 2020年2月10日
狭山キャンパス学生と教職員の交流会（学生CRED企画・運営）
- 2019年2月14日
CRED通信12（発行）
- 2020年2月14日～28日
リサーチウィークス（実施）
- 2020年2月14日～28日
リサーチウィークスポスターセッション（実施）
- 2020年2月17日
リサーチウィークスオープニングレクチャー（企画・運営）
- 2020年2月18日～20日
リサーチウィークス部署別SD取組成果報告会（共催・運営）
- 2020年2月19日
リサーチウィークスFDフォーラム（企画・運営）
- 2020年2月21日
共催によるFDイベント「連続セミナー 共通語としての英語—実践と可能性—
第3回ワークショップ ELFについて学んだ日本人学生の意識はどのように
変化する（しない）のか？」（共催）
- 2020年2月25日
平成年度 教育改革推進（学長裁量）経費予算による研究・開発の成果発表会
（企画・運営）

- 2020年2月26日**
協同学習（アクティブ・ラーニング研修）（企画・運営）
- 2020年2月27日**
共催によるSDイベント「障害の理解と対応—発達障害を中心に—」（共催）
- 2020年3月9日**
自校教育科目「スタートアップセミナー 自主自律」研修（企画・運営）
- 2020年3月未定**
第3回教育改革推進（学長裁量）経費予算による研究・開発シリーズ
「英語力向上を目指すe-learningプログラムの開発」（企画・実施）
- 2020年3月12日**
manaba通信09（発行）
- 2020年3月13日**
共催によるFDイベント「ルーブリック評価入門WS」（共催）
- 2020年3月16日**
東京大学FFPミニレクチャイベント（企画・運営）
- 2020年3月26日**
おいでよ！家政大～新入生でone team～（学生CRED企画・運営）
- 2020年3月27日**
自校教育科目「スタートアップセミナー 自主自律」研修（企画・運営）

出張歴

- 2019年5月8日**
東京都私立短期大学協会2019年度春季フォーラム
@アルカディア市ヶ谷「私学会館」:宮東城
- 2019年5月11日**
AL型授業に参加が難しい生徒・学生への対応について語り合おう
@川合塾会議室:丸山毅、矢野穂
- 2019年6月7日**
令和元年度年度私立大学等経常費補助金説明会
@文教学院大学 仁愛ホール:宮東城
- 2019年6月11日**
大学職員のための学生対応力向上セミナー
@早稲田大学 西早稲田キャンパス:矢野穂
- 2019年6月18日**
manaba新規導入事例セミナー
@ベルサール八重洲:安積和広
- 2019年6月22日**
神奈川大学メディア教育シンポジウム
～大学教育における必携PC活用を考える～
@神奈川大学 横浜キャンパス:安積和広
- 2019年6月24日**
大学IRコンソーシアム総会
@甲南大学 岡本キャンパス:宮東城
- 2019年7月6日**
私立大学の教育改革を支える「中堅リーダー」の育成と活用
グッドプラクティスから考える
@東北大学 川内北キャンパス:丸山毅
- 2019年7月15日**
第8回 教育におけるテキストマイニング活用研究会
@敬愛大学 稲毛キャンパス:宮東城
- 2019年7月19日**
私立大学のIR～データの共有と活用～
@アルカディア市ヶ谷「私学会館」:宮東城
- 2019年7月20日**
第21回関西大学FDフォーラム
「授業評価アンケートを展覧する—その多様性と可能性—」
@関西大学 千里山キャンパス:井上俊哉
- 2019年8月27日～28日**
学生FDサミット2019夏with学生FD会議
@北翔大学:学生CRED5名
- 2019年9月14日**
埼玉東上地域大学連携教育プラットフォーム 共同FDSD
「カリキュラムコーディネーター養成研修会（初級）」
@東京電機大学 鳩山キャンパス:丸山毅
- 2019年9月28日**
初年次ポータル科目における上級生サポーターの役割と機能～
上級生サポーターの成長と知の循環をどのように促すのか～
@明星大学 日野校:井上俊哉、鵜殿篤、矢野穂、SA2名
- 2019年12月7日**
大学教務実践研究会第7回大会
@中京大学 名古屋キャンパス:丸山毅
- 2019年12月13日**
私立大学キャンパスメイト研究会 ディプロマ・サプリメントシステム
「TCU-FORCE」の開発を通じて
@東京都市大学 二子玉夢キャンパス:丸山毅

- 2019年12月14日**
第22回関西大学FDフォーラム
「大学におけるライティング支援」
@関西大学 千里山キャンパス:戸田雅美・鈴木恵津子
- 2020年1月13日**
主体性を育む教育について話し合おう
@川合塾会議室:矢野穂
- 2020年1月22日**
彩の国コンソーシアム教職員研修会「大学から見た認証評価制度について」
@川越ラ・ボア・ラクテ:丸山毅
- 2020年2月27日～28日**
学生FDサミット
@広島経済大学:学生CRED8名

学科・科主体のFD活動

- 1) 児童学科・保育課
2020年2月29日～30日
第25回FDフォーラム 主体的な大学のあり方を考える
@龍谷大学 深草キャンパス:鵜殿篤

新規&追加購入文献

- 「Q&Aでよくわかる!見方・考え方を育てるパフォーマンス評価」西岡加名恵・石井英真（編著）、明治図書出版
- 「発達障害サポート入門-幼児から社会人まで-」古荘純一、教文館
- 「発達障害と呼ばないで」岡田尊司、幻冬舎新書
- 「発達障害」岩波明、文藝春秋
- 「発達障害をめぐって」神田橋條治、岩崎学術出版社
- 「あだし研究 自閉症スペクトラム～小道モコの場合」小道モコ、クリエイツかもがわ
- 「あだし研究 (2) 自閉症スペクトラム～小道モコの場合」小道モコ、クリエイツかもがわ
- 「自己発見と大学生生活 初年次教養教育のためのワークブック」松尾智晶（監修・著）中沢正江（著）、ナカニシヤ出版
- 「大学なんかが行っても意味はない?教育反対の経済学」ブライアン・カプラン（著）月谷真紀（翻訳）、みすず書房
- 「ガクガクを強くする!」元村有希子、岩波書店
- 「人生のサバイバルカ 17歳の特別教室」佐藤優、講談社
- 「答えより問いを探して17歳の特別教室」高橋源一郎、講談社
- 「測りすぎ なぜパフォーマンス評価は失敗するのか?」ジェリー・Z・ミューラー（著）、松本裕（翻訳）、みすず書房
- 「大学の組織と運営（大学SD講座1）」中井俊樹（編）、玉川大学出版部
- 「大学業務の実践方法（大学SD講座3）」中井俊樹・宮林常崇（編著）、玉川大学出版部
- 「対話型授業の理論と実践 深い思考を生起させる12の要件」多田孝志、教育出版
- 「大学の問題 問題の大学」竹内洋・佐藤優、時事通信社
- 「一生使える見やすい資料のデザイン入門」森重湧太、インプレス
- 「対話的学びをつくる 聴き合い学び合う授業」石井順治、ぎょうせい
- 「大学改革の迷走」佐藤郁哉、筑摩書房
- 「アクティブ・ラーニングとは何か」渡部淳、岩波書店

※3月は予定

2019年度、CREDは以下のメンバーで活動しました

所長	井上 俊哉（心理カウンセリング学科）
副所長	平山 祐一郎（児童学科）
参事	走井 洋一（児童教育学科）
	大西 淳之（栄養学科）
	宮本 康司（環境教育学科）
	佐藤 隆弘（児童学科）
	並木 有希（英語コミュニケーション学科）
センター専任職員	丸山 毅
	宮 東城
	安積 和広
	矢野 穂
センター嘱託職員	山本 優子
センター業務補助員	佐藤 初心
	久保 玲子

明星大学・京都産業大学
との研究交流会

初年次ポータル科目における 上級生サポーターの役割と機能

DATA

2019年9月28日(土) 13:00～17:00
明星大学 / 教員2名、学生2名、職員1名

令和元年度より始まった家政学部・人文学部に通う1年生必修の自校教育科目「スタートアップセミナー 自主自律」では、学生どうしの学び合いを支援、1年生と上級生のつながりをつくるために、各クラスに1名のSA(スチューデント・アシスタント)を配置いたしました。今回、同様の取り組みを長年行っている京都産業大学および明星大学との研究交流会にお声掛けをいただき、SA2名、教員2名、職員1名の計5名で参加してまいりました。科目の運営における上級生スタッフの役割について改めて考えるたいへんすばらしい機会となりました。実際に参加した本学SAの声をご覧ください。



Student Assistant Voice /



山本 由紀
家政学部
服飾美術学科3年

家政大学SA一期生として活動・参加することができ、とても嬉しく思います。

今回の交流会では、SAとして活動した約4ヶ月間で感じた不安や疑問を、同じように活動する方々と交流することで払拭できたと感じています。

また、このプログラムをより良くするヒントもたくさん得ることができました。

今回交流会に参加したことで、実際に開講するまでには長い道のりと先生方の思いがあったことを知ることができました。なぜ、スタートアップセミナーという講座を設けたのか、SAというシステムを取り入れたのか。私自身、明確な意図を理解することができずじまま活動していました。しかし運営側が理解していないことを、学生に教え伝えることはできません。その講座を設けている目的を、こ

のプログラムに関わる方々全員で共有することができたから、より質の高い、有意義なものになると感じました。

また、他大学のSAというシステムの組織力の高さにとっても感心しました。SAのシステムを取り入れて10年目の明星大学では、SAという存在がサークルのように組織されていて、先輩後輩同期皆で助け合い、試行錯誤していく環境があることにとても驚きました。また京都産業大学でもSA同士の連携が強く、共に頑張っている様子が印象的でした。

同時に、家政大学でもこのようなシステムがあれば素敵だなと思います。

明るく真面目な家政ガールならきっと魅力的なプログラムに作り上げてくれるはずです！

初めてのSAはわからないことばかりで何が正解で不正解なのかそれすらもわからない手探りの状態でした。活動を終えていざ振り返ってみると、私のSAとしての活動は不正解の方が多かったのではないかという思いが膨らみ、他の大学のSAさんはどのように活動しているのか、どんな人たちが気がなり交流会への参加を希望しました。交流会では自分と同じ学生がこんなにもしっかりと考えをもって、活動しているのだと知りとてもいい刺激になりました。他大学での活動はもちろん本学との違いもあり、その違いを知ることによって本学らしいSAの活動を見つけ、発展させていくことができると思いました。そのため

交流会に参加できる機会があれば、積極的に多くのSAに参加してほしいと思っています。そして本学のSAの歴史と仕組みを確立して行ってほしいです。説明会から交流会までを通し、自分は成長できたのかと聞かれれば、正直それはわかりません。ですがこのSAを通して自分の問題点、足りていない部分を痛感する場面がたくさんありました。自分の欠点に気づけないまま大学生活を終え、社会に出ていることを想像すると、やはりこの半年間の経験はとても貴重なもので得るものは大きかったと思っています。最後の1年間、この経験を生かした4年間で1番有意義で充実した大学生活にしたいと思っています。



橋 美結
家政学部
服飾美術学科3年